

7. 観光振興

観光振興についても、商工業と同様にコロナ禍により、大きな打撃を受けています。オミクロン株のピークアウトを見据え、国・県が実施する観光支援事業などを最大限に活用し「美肌温泉」「食」「歴史・文化」など本町の魅力ある地域資源を、SNSを中心に情報発信し、需要回復と観光PRに努めて参ります。

トロッコ列車の運行については、昨年より「木次線観光列車運行検討会」を行い、先般2月9日の第5回検討会において、最終的な方針が出され、「奥出雲おろち号」は令和5年で運行を終了し、令和6年からは「観光列車あめつち」が導入されることになりました。残念ながら出雲横田駅以南のスイッチバックを含む、備後落合駅までの区間は走りませんが、このJR側の提案を拒否しても、木次線にとつての利益はないと判断し、県・沿線自治体と共に、受け入れを表明しました。これからはJR側と沿線自治体、観光協会など



トロッコ列車「おろち号」

が「あめつち」の運行を前提とした具体的な観光振興に取り組む事になります。

8. 地域振興・定住対策

地域振興、定住対策については、急速に進む中山間地域の過疎化に対処するため、地域のファンとして地域に多様に関わる「関係人口」の創出に向けて、町と関わりを持ちたい方と、地域をつなげる仕組みづくりを「小さな拠点づくり」などと連携を図りながら進めて参ります。そして、都市部から奥出雲町へ向かう新たな人の流れを拡大し、地域活性化や地域課題の解決など地域づくりの担い手として、将来的には移住につながるよう「関係人口創出プロジェクト」を推進して参ります。

9. 公共交通

JR木次線については、平均通過人員が減少し、将来が心配される状況となっていることから、木次線利活用推進協議会において、県と連携して木次線を活用したツアー造成や、旅行者への販売支援により誘客を図り、利用拡大に力を入れて参ります。また、地元など一般利用者向けの利用促進事業

として、運賃や2次交通となる貸切バスの費用などに助成を行います。

地域生活交通再構築実証事業については、高齢化社会の到来や、小学校再編計画などを踏まえ、将来に向けて持続可能な地域公共交通の構築を目指し、奥出雲町地域公共交通計画の策定に着手します。

10. 結婚・出産・子育て

結婚支援については、若い世代の経済的不安を軽減し、期待を持って結婚を決意し、安心して子どもを産み育てることができるよう新婚世帯に対し、結婚に伴う新生活のスタートアップにかかる費用の一部を補助する結婚新生活支援事業補助金を新設します。

子育て支援については、試行的に三成地区限定で行っていたファミリーサポート事業を、令和4年度から町内全地区を対象を広げて開始いたします。幼児園やクラブ活動への送迎などにご利用いただき、仕事をしながら育児をする子育て世帯の支援に取り組みます。また「よこた子育て支援センター」について、令和4年度から、拠点を横田幼児園から旧鳥上幼児園へ移し、月曜日から金曜日に開設します。子育て中の親子の相互交流や子育ての不安・悩みを相

談できる場として提供して参ります。

子育て世代包括支援センターについては、奥出雲病院と連携して、産前産後サポート事業により、妊娠・出産、子育ての悩みの軽減に努め、産後ケア事業では、出産後の母子の心身の安定と育児不安の解消を図っています。今後も、安心して出産・子育てが出来る環境づくりに努めて参ります。

先天性難聴は、約千人の出生数に対し1人の割合で認められる先天性疾患の中でも頻度の高い疾患の一つです。こうした聴覚障害を早期に発見し、音声言語発達等への影響を最小限に抑えるため、令和4年度より新生児の聴覚スクリーニング検査費用に対する助成事業を創設します。

11. 医療・介護・福祉

町立奥出雲病院については、コロナ禍の影響もあり、厳しい経営状況が続いています。

今後の経営方針として、入院について、3次救急病院からの受け皿として



在宅診療センター

の役割を果たせるよう、関係病院との情報連携を強化して参ります。

また、昨年、総合診療科の医師2名に着任いただき、高齢者医療や在宅医療への体制強化が進み、院内に「在宅診療センター」を設置し、「訪問看護ステーション」と一体的な運営により、訪問サービスの強化ができました。引き続き、在宅医療を充実させ、安心して住み続けることのできる環境づくりに努めます。

医療介護連携事業については、町内全介護事業者及び社会福祉協議会などに参加いただき「奥出雲町医療介護ネットワーク」を設置し、高齢者情報の一元管理、よりきめ細やかな現状と課題の把握を行っています。今後、地域での医療、介護サービスを維持していくため、更に議論を深めて参ります。

12. 教育

小学校再編については、令和3年5月から12月までに4回の校区別協議会代表者会議を開催し協議を進めて参りました。町としては、各地区の意向に基づき小学校再編を進める考えです。

少子化が当面続く町において「子どもたちが、子どもたちの中で学び合える環境を維持するため、

学級規模を確保する小学校再編が必要である」との思いの下、令和4年度も進めて参ります。

なお、仁多地域の統合小学校建設候補地については、4月以降に開催を予定している教育版タウンミーティングなどで、町民の皆様から広く意見を伺い、できるだけ早い時期にお示します。

横田高校魅力化事業については、横田高校と地域が協働することとが、全体の活性化につながるの考えから、県が掲げる「高校を核とした新たな人づくり・人の流れづくり」の効果が最大となるよう、横田高校の魅力をもっと高める取り組みを行政も一緒になって進めて参ります。

13. スポーツ・文化振興

スポーツ振興については、令和3年は、東京2020オリンピックで町内出身のホッケー選手の活躍もあり、スポーツが盛り上がり続けた1年となりました。

ホッケーに限らず、町内競技関係者が様々な大舞台



東京2020 オリンピック
ホッケー日本代表の激励式

で活躍できるよう、今後も各種スポーツの振興に取り組んで参ります。

14. 防災対策

防災対策については、消防団は、地域の消防防災体制の中核的役割を果たす極めて重要な存在ですが、団員数の減少傾向が続いており、極めて憂慮すべき事態となっていることから、今後、年報酬の増額や、出勤報酬の創設など、団員の処遇改善を進めながら、地域の防災力強化に努めて参ります。

防災行政無線については、平成24年度に町内15箇所屋外スピーカーを整備し、運用しておりますが、現状ではカバーできない地域があることや、屋外放送は、豪雨時には聞こえにくいな

で活躍できるよう、今後も各種スポーツの振興に取り組んで参ります。



屋外スピーカー

文化振興については、奥出雲町文化協会や各地区公民館講座などで、町民の皆様が主体となり様々な活動を行っていただいています。町として、活動が継続できるように、芸術文化祭や芸能音楽祭の開催支援を行い、文化の薫り高い町づくりを推進して参ります。

どの課題があり、令和4年度から2カ年で改修整備を行います。この改修事業は、屋外スピーカーの増設に併せ、屋内でも放送を聞くことができるよう、個別受信機の全戸配布を行う計画で、町民の皆様には防災情報をもれなく伝達できる体制を構築して参ります。

また、近年は、これまで経験したことのないような降雨により、甚大な災害が発生するリスクが高まっている状況で、地域の防災力の強化は喫緊の課題の一つです。令和2年度から、防災士資格取得のための助成を行っています。令和4年度からは、協議会を立ち上げ、専門的な知識、技能を身に付けた防災士や地域の皆様と連携しながら、実践的な防災訓練などに取り組み、地域の防災力向上に努めます。

15. 総括

今後も、町民の皆様が主役であるとの認識の下、「つながり」で築く幸せと笑顔あふれるまち 奥出雲町を目指し、持続可能な未来へつなぐまちづくりを進めて参ります。

引き続き、町政運営へのご理解とご協力を頂きますようお願い申し上げます。